科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	アジア史						
担当教員	根岸 智代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア地域の古代から現代に至る歴史を概括する。						
授業の概要	アジア地域の古代文化の成り立ちからペルシア、インド文化への展開を概括する。中国に関しては、中国王朝の成立から清代、中華民国時期を経て中華人民共和国成立までを詳しく説明し、東アジアと日本の交流の歴史を時系列に学ぶ。						
到達目標	今日の東アジアの歴史を学ぶことによって、東アジアにおける日本の立場を再認識する。						
授業計画	第1回 アジアの諸文化の成立 古代ペルシア文化、古代インド文化 古代中国 第2回 アジア諸民族の相互的交渉 アジアの交通形成 第3回 近世的ナショナリズムの潮流 中国 宋朝、蒙古、明王朝 第4回 清代の中国 清代のアジア 第5回 近世文化の展開 第6回 最近世文化の東漸 ヨーロッパ勢力 第7回 清朝の斜陽 第8回 革命と中国の出発 第9回 第1次世界大戦と中国 第10回 1930年代の中国 第11回 アジア太平洋戦争と中国 第12回 内戦と革命をめぐる中国政治 第13回 中国の社会主義建設 第14回 中国の改革開放政策 第15回 21世紀の中国： 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から、東アジアに関する新聞などに目を通しておくことを希望する。						
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。						
評価基準と評価方法	論述式のテストと小テストで評価を行う。（試験70% 小テスト30%）						
教科書							

参考書	宮崎市定『アジア史概説』中公文庫 田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司『新図説中国近現代史』法律文化社、2012年
-----	--

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	化学A						
担当教員	稲垣 明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りにある物すべて、また私たちの身体自体も様々な物質が組み合わさってできている。その物質は無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関係する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の基本的な構造や性質を原子・分子のレベルで説明できる。 化学を身近なものとして感じ、様々な現象や物質を化学的に考える態度を身につける。 						
授業計画	第1回 物質と化学 第2回 原子の構造 周期表 第3回 化学結合（イオン結合） 第4回 化学結合（共有結合 金属結合） 第5回 物質質量 原子量 分子量 第6回 化学反応と反応式 第7回 物質の三態 第8回 溶液の濃度 第9回 酸と塩基 第10回 水素イオン濃度とpH 第11回 酸化還元 金属のイオン化傾向 第12回 電池 第13回 化学反応と熱 第14回 化学平衡 第15回 コロイド溶液						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%程度、平常点（受講態度、提出物等）40%程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。期末試験を行う。						
教科書	数研出版編集部編『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 ISBN 978-4-410-27384 C7037						
参考書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎化学』南山堂 ISBN978-4-525-05421-2 上記の教科書は、本来は資料集なのでまとまった記述はない。そうしたものが必要と感じるようなら、この本を薦める。 立屋敷 哲著『ゼロからはじめる化学』丸善 ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。前提として化学についての基礎知識は必要だし、読むには気力と体力もいる。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	化学B						
担当教員	稲垣 明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りには無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 後期は、有機化合物を中心に扱う。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関係する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物をグループに分類し、各グループの性質を説明できる。 ・重要な官能基について、その性質と反応のパターンを説明できる。 ・身の回りの様々な現象を、原子・分子のレベルから考えようとする態度を身につける。 						
授業計画	第1回 有機化合物の特徴 第2回 飽和炭化水素 第3回 不飽和炭化水素 第4回 有機化合物命名法と異性体 第5回 脂肪族化合物①（アルコール） 第6回 脂肪族化合物②（カルボン酸） 第7回 脂肪族化合物③（エステル） 第8回 油脂とセッケン 第9回 芳香族化合物①（芳香族炭化水素） 第10回 芳香族化合物②（フェノール・芳香族カルボン酸） 第11回 芳香族化合物③（アミンなど） 第12回 高分子化合物 第13回 糖類 第14回 アミノ酸とタンパク質 第15回 酵素 核酸						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60％程度、平常点（受講態度、提出物等）40％程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。期末試験を行う。						
教科書	数研出版編集部編『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 ISBN 978-4-410-27384 C7037						
参考書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎化学』南山堂 ISBN978-4-525-05421-2 上記の教科書は、本来は資料集なのでまとまった記述はない。そうしたものが必要と感じるようなら、この本を薦める。 立屋敷 哲著『ゼロからはじめる化学』丸善 ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。前提として化学についての基礎知識は必要だし、読むには気力と体力もいる。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	学習心理学						
担当教員	陳 香純						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎課程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していることに気付く。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、これら2つの条件づけを中心に、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 ・2つの条件づけの基礎課程を理解する。 ・一人ひとりの日常的な行動を学習心理学の視点から見つめられるようになる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習心理学とは何か 2. 生得的行動 / 様々な行動と学習との関わり 3. 古典的条件づけ1：馴化と鋭敏化 4. 古典的条件づけ2：獲得過程と刺激般化 5. 古典的条件づけ3：消去と自発的回復 6. 古典的条件づけ4：信号機能 7. 古典的条件づけの応用 8. オペラント条件づけ1：効果の法則と参考随伴性 9. オペラント条件づけ2：強化 10. オペラント条件づけ3：消去と弱化 11. オペラント条件づけ4：刺激性制御 12. オペラント条件づけの応用 13. 応用行動分析学1：DVD学習（応用行動分析の現場について） 14. 応用行動分析学2：介入計画および実施方法 15. 定期試験実施とまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを積極的に考える。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点10%、定期試験90%						
教科書	随時プリントを配布する。						
参考書	<p>実森正子・中島定彦（2000）. 学習の心理—行動のメカニズムを探る. サイエンス社 中島定彦（2002）. アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版 杉山尚子（2005）. 行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由. 集英社新書 奥田健次（2012）. メリットの法則—行動分析学・実践編. 集英社新書</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行： J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽： J. S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生： A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽： W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲： W. A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽： L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり： F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ： G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行： F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義： F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向： H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽： P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り： S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業までの間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行： J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽： J. S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生： A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽： W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲： W. A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽： L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり： F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ： G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行： F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義： F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向： H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽： P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り： S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業までの間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拡げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 (1) 西洋と日本 第6回 遠近法 (2) 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 (1) 西洋と日本 第6回 遠近法 (2) 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	<p>まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。</p>						
到達目標	<p>新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、自分で考えてみる習慣をつける。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度についての概論 2. 再生医療とは？ 3. 細胞分化と発生のしくみ 4. 幹細胞について 5. 医療用具とその材料 6. 人工臓器と組織工学 7. 医薬品、医療用具の認可制度 8. 臓器移植について 9. クローン動物作成技術 10. 生命倫理と社会的受容 11. 難病について 12. 感染症 13. 医療に関わるトピックス1（報道記事などを参考にして事例を解説） 14. 医療に関わるトピックス2（報道記事などを参考にして事例を解説） 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I インTRODクシヨン 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 中間まとめと復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 中間まとめと復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由</p> <p>第16回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	参加型講義 (パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める)。						
評価基準と評価方法	復習テスト (2回、併せて40%) と期末試験 (60%) を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか (どのような見解をとるかは当然ながら自由) の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」 (信山社)						
参考書	なし (配布資料あり)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法が存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I インTRODクシヨン 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 中間まとめと復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 中間まとめと復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由</p> <p>第16回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	参加型講義 (パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める)。						
評価基準と評価方法	復習テスト (2回、併せて40%) と期末試験 (60%) を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか (どのような見解をとるかは当然ながら自由) の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」 (信山社)						
参考書	なし (配布資料あり)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解く。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とする。授業では、身近な話題を題材に、その評価をデータの代表値や散らばりなどのデータ分析から、相関、推定、検定などの統計操作、および簡単な確率やモデリングなどを利用して統計学的に処理する方法を学ぶ。難しい数学を使わずに統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計学的な扱いを学ぶ。						
到達目標	統計で必要な平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解する。相関を検証する χ^2 検定、平均を比較するt検定、分散を分析するF検定、データの相関を調べる相関係数などを理解する。						
授業計画	<p>第1回:Orientation／統計学とはなに？／教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回:第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回:第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回:第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回:第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回:第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回:第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回:第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」；「ここらの数値化?」</p> <p>第11回:『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回:第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回:第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回:第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回質疑応答と試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に必要ないが、次のURLで学習することが望ましい。 http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html						
授業方法	パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)の得点から理解度を評価する。欠席時は、原則事前に連絡してください。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。連絡なしでの欠席が5回を越えると単位認定から除外します。						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』(技術評論社)						
参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』(技術評論社) 小島寛之著『完全独習統計学入門』(ダイヤモンド社) 柳谷晃著『統計解析の基本』(日本能率協会マネジメントセンター) 中西寛子著『統計学の基礎』(多賀出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列																								
科目名	景観論																								
担当教員	中林 浩																								
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																		
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところです。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
授業の概要	<p>「授業のテーマ」で述べたことのくり返しになりますが、次のようです。 世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところです。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願います。																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せつかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 <p>15回でない構成にすると</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td style="width: 75%;">A1 景観・風景とは</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは			A2 いろいろな景観		B	世界遺産制度のしくみ	テスト1	C	景観保全・文化財行政の発展		D	景観法のしくみ		E	景観問題	テスト2
A	A1 景観・風景とは																								
	A2 いろいろな景観																								
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																							
C	景観保全・文化財行政の発展																								
D	景観法のしくみ																								
E	景観問題	テスト2																							
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																								
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。																								

評価基準と 評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。 シラバス内クイズ、「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。なぜこんなところでクイズをしているのかな。
教科書	
参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の「概念装置」(基礎的なものとはいえ)を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。新聞・TVなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？ 2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学 3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界 4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学 5. 経済システムと組織①：市場のしくみ 6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状 7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について 8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性 9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策 10. 開放経済のマクロ経済学 11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動 12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動 13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場 14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？ 15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	つね日頃からインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください(確認テストなどでたずねます)。						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	定期試験70%と平常点30%						
教科書							
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社) 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社) 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』(ミネルヴァ書房) 山田鋭夫著『レギュレーション理論』(講談社新書) J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	言語学入門						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の多様性についての理解を深める						
授業の概要	日本語の話しことば、つまり「方言」と「標準語・共通語」を中心に、その多様性について理解を深めたいと考えている人を対象とした講義です。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものです。ビデオなどの資料を取り入れながら講義をすすめます。演習問題や課題も取り入れる予定です。						
到達目標	日本語の話しことばにかんして、基本的なことがらを習得し、見識を深めることを目標とします。						
授業計画	第1回 話しことばの多様性 第2回 方言とは何か 第3回 方言の境界 第4回 方言の意識 第5回 文献にあらわれる方言 第6回 江戸語と標準語 第7回 標準語と方言 第8回 中間テストと解説 第9回 ことばの伝わり方 第10回 日本各地の方言① 第11回 日本各地の方言② 第12回 方言の変化 第13回 位相語 第14回 方言の動態 第15回 テストの解説とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の生活で、特に意識もせず使っていたり耳にしたりする話しことばは、貴重なデータの宝庫です。気をつけて観察していると、疑問に思うことや気にかかることがたくさんあるはずです。また、当たり前すぎて何も思わなかったことにもさまざまな興味深いことが含まれていたりもします。自分の身の回りにある話しことばについて、普段から注目し、問題意識を持って授業に臨んでください。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点・小テスト（50%） 中間テスト（25%） 期末テスト（25%）						
教科書	真田信治『方言の日本地図 ことばの旅』講談社α新書 ISBN 4-06-272168-6C0281						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。</p> <p>分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 13 日本と米・欧・露 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 13 日本と米・欧・露 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	井上 重信						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	・情報化社会の進展と社会環境が変化中でのメディアの役割変化と今日的課題をコミュニケーションの観点から理解する。						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。マーケティングコミュニケーションを中心に具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げることで理解を深めていく。						
到達目標	・メディアやコミュニケーションに関する基本的な用語を理解する。 ・情報化社会におけるメディアの現状や課題について自分の考えや意見を述べることができる。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 メディアとは何か 第3回 メディアリテラシーについて 第4回 コミュニケーションとは 第5回 マーケティングとメディアの関係 第6回 マーケティングと広告の関係 第7回 広告を取り巻く環境 第8回 広告コミュニケーションの変遷 第9回 広告表現の考え方と表現トレンド 第10回 ソーシャル時代の広告コミュニケーション 第11回 広告表現とコンテンツ① カンヌクリエイティビティフェスティバルの作品より 第12回 広告表現とコンテンツ② アジアの広告祭の作品より 第13回 近年の政治やジャーナリズムとメディア 第14回 インターネットとトリプルメディア（次世代メディアの可能性） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	・メディアやコミュニケーションに対して自分なりの問題意識を養うため、新聞やテレビのニュース、身の回りの広告を見ること。						
授業方法	・講義形式で授業を進める。毎回パワーポイントによるスライドを使用。						
評価基準と評価方法	・試験（60点） ・平常点等（40点） 配点内訳：授業への積極的参加度（20点）と小レポート（20点）						
教科書	・特に指定しない。 ・毎回資料を配布する予定。						
参考書	・特になし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	井上 重信						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	・情報化社会の進展と社会環境が変化する中でのメディアの役割変化と今日的課題をコミュニケーションの観点から理解する。						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。マーケティングコミュニケーションを中心に具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げることで理解を深めていく。						
到達目標	・メディアやコミュニケーションに関する基本的な用語を理解する。 ・情報化社会におけるメディアの現状や課題について自分の考えや意見を述べることができる。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 メディアとは何か 第3回 メディアリテラシーについて 第4回 コミュニケーションとは 第5回 マーケティングとメディアの関係 第6回 マーケティングと広告の関係 第7回 広告を取り巻く環境 第8回 広告コミュニケーションの変遷 第9回 広告表現の考え方と表現トレンド 第10回 ソーシャル時代の広告コミュニケーション 第11回 広告表現とコンテンツ① カンヌクリエイティビティフェスティバルの作品より 第12回 広告表現とコンテンツ② アジアの広告祭の作品より 第13回 近年の政治やジャーナリズムとメディア 第14回 インターネットとトリプルメディア（次世代メディアの可能性） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	・メディアやコミュニケーションに対して自分なりの問題意識を養うため、新聞やテレビのニュース、身の回りの広告を見ること。						
授業方法	・講義形式で授業を進める。毎回パワーポイントによるスライドを使用。						
評価基準と評価方法	・試験（60点） ・平常点等（40点） 配点内訳：授業への積極的参加度（20点）と小レポート（20点）						
教科書	・特に指定しない。 ・毎回資料を配布する予定						
参考書	・特になし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養I／（哲学から考える世界と人間）						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学です。この授業では、古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ、哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容について学びます。						
授業の概要	西洋において哲学的思考が誕生した古代ギリシア、そして西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀までに登場した哲学者のなかから、とくに重要な人物の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容をできるだけわかりやすく講義します。授業ではテキストの解説をおこなうとともに、適宜、授業のテーマと関連する現代的なトピックを扱った参考資料を配布して、そのことからの哲学的意味を明らかにして、われわれが生きているこの現代における哲学的思考の意義を解説します。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や本の名前を記憶することではありません。哲学は、人が生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点に立ち戻って、事柄の根源的な意味を洞察しようとする学問です。われわれが直面する問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まり論理的・反省的にその問題自体の意味を深く考えるときに、哲学という営みが始まります。いろいろな重要な問題に対して、それらをどのようにとらえ、どのように対応すべきなのかことを根源から考えようとする態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 理想の国家とは？－プラトンの理想国家 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 経験論とモリスヌクス問題 12 カントの哲学－コペルニクスの転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜額 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前の予習は必要ありません。授業の後に自分でもう一度テキストを開いて、授業で扱った箇所を読み返して、授業で解説されたことの内容を確認し、理解を深めるようにしましょう。哲学書の原典を独力で読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識をもとにして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関する解説書を自分の手にとってゆっくりでもよいですから読むことによって、授業の内容の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012 ISBN:978-4121021878）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	嶋矢 貴之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員裁判と日本の刑事法入門						
授業の概要	2009年5月から、裁判員裁判が導入され、重要な刑事裁判に一般市民（みなさんも含まれます）が参加することとなりました。本講義は、これに関わるための基礎知識、具体的には、裁判員裁判のやり方、わが国の犯罪状況、わが国の刑法等に関するおおよその理解を得て、社会生活上・学問上、いずれにも有益な基礎教養の習得を目指すものです。日々起こる犯罪について、色々な角度から考えてみましょう。						
到達目標	今後裁判員に選ばれて参加するための基礎的な知識を得るのみでなく、日本の犯罪に関する事実や、刑事法に関する知識を獲得し、犯罪報道や社会問題をよりよく理解し、考えられるようになることを目指します。						
授業計画	1 法律とはどのようなものか？－ガイダンス 2 裁判員になるまで－いつ、誰が呼ばれて、どこに行くの？ 3 裁判員裁判の仕組み 4 裁判官、検察官、弁護士、警察官の仕事 5 刑法の基本原則－人を処罰するためのルール 6 日本の犯罪状況はどうなってる？ 7 少年と犯罪－子供だから、か、子供でも、か？ 8 精神障害と犯罪－心神喪失って何？ 9 交通事故と犯罪－わざとじゃなくても～過失犯について 10 犯罪死亡被害と損害賠償－命の代償？ 11 ストーカー対策と犯罪 12 日本の刑罰（1）－刑罰はどんなことをするの？ 13 日本の刑罰（2）－死刑について 14 隣の犯罪者？－刑務所を出た後の犯罪者 15 まとめと試験 * 授業において関心のあるニュース・事件を報告してもらいそれを授業の素材にするため、テーマの順番や内容を適宜入れ替えることがあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：法律に関する基本的知識は不要ですが、各回適宜指示する文献や報道に目を通してください。 授業後学習：授業後に復習して、習った範囲で法律に関する基本的知識を定着させるとともに、法律文献や裁判に関する報道に積極的に目を通すようにしてください。						
授業方法	講義形式で行うことを予定していますが、参加人数によっては興味のある犯罪や事件に関する報告を求め・質問の受付を行いながら、授業を行います。犯罪に関するニュースを見て、わからないところ、疑問に思ったところを質問してください。裁判員に関する映像資料の視聴とそのレポート提出も予定しています。						
評価基準と評価方法	期末試験50%、平常点（レポート2～3回）50%による。到達目標の達成状況をレポートや期末試験で測ることで評価をします。						
教科書	なし						
参考書	松井茂記ほか著・はじめての法律学〔第4版〕（有斐閣、2014）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養V／地域研究I						
担当教員	根岸 智代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア社会の歴史と現状及び日本との関係を考察する。						
授業の概要	中国をはじめとするアジア社会の現状を歴史的視点などから考察する。アジアとは何か、どのように観るべきかという問題について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得する。						
授業計画	第1回 近代の中国 清末～中華民国期 第2回 近代の中国 中華民国期から中華人民共和国へ 第3回 現代中国 1950年代の中国 第4回 現代中国 1960年代から1970年代の中国 第5回 現代中国 改革開放初期の中国 第6回 現代中国 天安門事件以後の中国 第7回 現代中国 21世紀の中国 第8回 台湾 (1) 台湾近現代史 第9回 台湾 (2) 戦後台湾の発展 第10回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還 第11回 韓国 (1) 戦後韓国の発展と日韓関係 第12回 韓国 (2) 第13回 シンガポール シンガポールの建国以降の経緯と現状について 第14回 その他のアジア諸国の日本との関係について 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から新聞やテレビ等で、東アジア及びアジア全般の情報を収集するよう希望する。						
授業方法	講義形式で行う。映像や画像を用いて説明し、授業内容に沿ったレジュメを用意する。						
評価基準と評価方法	論述式の試験（70%）と小テスト（30%）で評価する。						
教科書							
参考書	授業中にプリント等で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処する方法を修得する。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容）	特にありません。						
授業方法	講義形式で行いますが、毎回小レポートを書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30% 期末試験：70%						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	小林 北斗						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的考察						
授業の概要	現代はストレス社会であるといわれており、多くの人が何らかのストレスを抱えながら生活を送っている。本講義では、ストレスについて考察していく中で様々な心の病について概観し、その予防法や対処方法について学んでいく。また本講義では、心の病といった病理的側面だけでなく、人の強みといった肯定的な側面についても概説していく。						
到達目標	臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて理解し、こころの健康に対する理解を深める。						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 ストレスに関する基本的な考え方 第3回 いろいろな精神疾患①（統合失調症、うつ病） 第4回 いろいろな精神疾患②（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害、摂食障害） 第5回 いろいろな精神疾患③（発達障害、人格障害） 第6回 いろいろな精神疾患④（アルコール・薬物依存） 第7回 心理テストの紹介①（知能検査、質問紙法） 第8回 心理テストの紹介②（投映法） 第9回 心理療法の紹介①（精神分析、来談者中心療法） 第10回 心理療法の紹介②（行動療法、認知行動療法） 第11回 心理療法の紹介③（家族療法、ブリーフセラピー） 第12回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介① 第13回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介② 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 講義の理解度の確認 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、テレビなどで取り上げられているメンタルヘルスや講義で話された内容などを積極的に調べてほしい。						
授業方法	適宜、資料を提示し、その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらおう。						
評価基準と評価方法	試験60%、平常点30%、ミニレポート10%で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	災害と防災						
担当教員	池田 清・村井 雅清						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	災害と防災に対する関心が背高まってきている。地球温暖化や都市化が、今までになかったような大災害の要因になっている点も指摘され、災害と防災に関する正しい知識と理解が社会生活を営む上で必須となっている。						
授業の概要	本科目は、地震、津波、原発事故、戦争など多様な災害について、発生要因と発生のメカニズム、被災態様、復興のあり方、災害への備えなどについて総合的に理解することを目的とする。また、被災者の心や生活、被災者支援、復興をめぐる問題なども取り上げる。						
到達目標	大災害と復興のあり方は、私たちひとり一人の生き方を問うものであり、災害と防災を学ぶなかで、人間や社会のあり方を考える。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 災害とは何か 第3回 自然災害と人為的災害 第4回 真の復興とは (1) 第5回 真の復興とは (2) 第6回 阪神淡路大震災とボランティア 第7回 東日本大震災とボランティア 第8回 海外支援とボランティア 第9回 ボランティアの課題と展望 第10回 ボランティアの課題と展望 第11回 阪神・淡路大震災と東日本大震災 第12回 阪神淡路大震災と東日本大震災 第13回 真の被災者救済とは 第14回 東日本大震災の復興と課題 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	新聞などニュースを通じ社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を基本としビデオなどをみて学ぶ。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30% 私語、スマホは厳禁						
教科書							
参考書	池田清『災害資本主義と「復興災害」』水曜社、2014年						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の内容 ・「現代社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ・「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. 消費社会——私たちは何を買っているのか 3. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 4. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 5. 監視社会——誰が誰を監視するのか 6. 環境管理社会——私達が知らないうちに方向づけられる 7. 格差社会——機会の格差と結果の格差 8. グローバル化——「豊かさ」を成り立たせているもの 9. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 10. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 11. 学校——何が行われている場所なのか 12. 仕事——自己実現は可能か 13. ジェンダー——男／女の境界を越えて 14. 幸福——私たちにとっての幸せ／不幸せのかたちとは 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要ありません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の小感想の内容（40%） ・期末テストの結果（60%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の内容 ・「現代社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ・「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. 消費社会——私たちは何を買っているのか 3. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 4. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 5. 監視社会——誰が誰を監視するのか 6. 環境管理社会——私達が知らないうちに方向づけられる 7. 格差社会——機会の格差と結果の格差 8. グローバル化——「豊かさ」を成り立たせているもの 9. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 10. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 11. 学校——何が行われている場所なのか 12. 仕事——自己実現は可能か 13. ジェンダー——男／女の境界を越えて 14. 幸福——私たちにとっての幸せ／不幸せのかたちとは 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要ありません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の小感想の内容（40%） ・期末テストの結果（60%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	日道 俊之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学概論						
授業の概要	社会心理学とは、個人と社会の相互作用によって人間の行動がどのように変わるのかを検討する学問である。例えば、「普段はそうでもないのにテスト前になると掃除がしたくなるのはなぜか」といった身近な疑問から「優しいはずの人々が戦争に参加するのはなぜか」といった重大な問題にまで説明を与える学問である。本講義では講義や簡単な調査を通して、人の「こころ」に影響を与える社会心理学的要因を個人・対人・集団の3つのレベルに分けて解説していく。						
到達目標	①社会心理学の基礎的な知識や考え方を習得する。 ②自分や他者の行動を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：社会心理学とはどのような学問か 第2回 個人①：社会的認知 第3回 個人②：感情 第4回 個人③：自己 第5回 対人①：他者評価 第6回 対人②：コミュニケーション 第7回 対人③：態度 第8回 対人④：援助行動と攻撃行動 第9回 集団①：集団と個人 第10回 集団②：ステレオタイプ・偏見 第11回 集団③：集団間葛藤 第12回 集団④：文化 第13回 Ex.：進化心理学 第14回 Ex.：社会神経科学 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、ときに心理学調査を体験していただきます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	平常点45%・試験55%とします。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 唐沢かおり（編著）「新 社会心理学 ―心と社会をつなぐ知の統合―」北大路書房 ISBN 978-4-7628-2851-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活I (生活と家族)						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークをを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に行っている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の一生と家族 2. 青年期の自立と家族 3. 家族の概念と定義 4. 少子化とその原因分析 5. 子どもの発達と親の役割 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 共生社会と福祉 (高齢者福祉・児童福祉) 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。地域と家族との関係について、近隣コミュニティにおける家族の役割を調べ報告する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験 (授業中の小レポート60% 期末試験 40%)						
教科書	よくわかる現代家族【改訂版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活II (神戸論)						
担当教員	池田 清						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、都市社会のモデルとして近代的都市の典型として神戸を取り上げ、都市生活における政治的、行政的、経済的、文化的諸問題とこれからの課題を検証する。						
授業の概要	神戸の歴史を理解するために具体的事例から学ぶ。また阪神・淡路大震災を経験した都市として、被災地神戸の問題を検証することで、今後、都市で起こりうる災害に対する対処する方法と課題について考える。						
到達目標	これからのまちづくりは、自分の身近な生活や文化の視点から問題を考えることが大切である。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 神戸の歴史 (古代) 第3回 神戸の歴史 (中世) 第4回 神戸の歴史 (近世) 第5回 神戸の歴史 (近代) 第6回 神戸の歴史 (現代) 第7回 神戸市の都市経営 第8回 神戸の文化とまちづくり 第9回 キリスト教とまちづくり 第10回 都市づくりと阪神・淡路大震災 第11回 神戸市の都市経営と阪神・淡路大震災 第12回 復興政策とまちづくり 第13回 復興災害と被災者の生活再建 第14回 真の復興とは 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容)	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用する。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「楽しい生活」とは何かを社会福祉とその制度を学び考える						
授業の概要	社会福祉とは、障がい者と高齢者だけの社会福祉ではなく全ての人を対象とする。日常生活の身近なテーマから社会福祉とその制度について学び、「人間とは何か」、「どう生きていくか」、そして「幸せとは何か」について社会福祉の基本的な考えと制度を視覚教材や一部アメリカについても学ぶことで、「楽しい生活」について考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) グループワークや話し合いを通して、他者の考えを知ることで自分の価値観や物の見方を知ることができる。 (2) 社会福祉の基本的な考えや制度を知ることができる。 (3) 学んだ講義内容を実生活に活かすことができる。 (4) 自分の楽しい生活についての考えを他者に説明することができる。 (5) 受講前と比較して、自分の考え、価値観について述べるができる。 						
授業計画	第1回 シラバス内容の説明、社会福祉とは何か（社会福祉の概念） 第2回 第1回の復習、社会福祉とは何か（社会福祉の原理）、楽しい生活とは何か 第3回 障がい者と制度（身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、ジョブ・コーチ） 第4回 障がい者と制度（身体障害者補助犬法） 第5回 出産（不妊、十代の性と生、誕生死） 第6回 出産（アメリカの人種差別と教育と性） 第7回 出産と制度（里親制度、特別養子縁組） 第8回 高齢者の生活と年金 第9回 高齢者と介護と制度（介護、日本の施設とアメリカの施設から高齢者の楽しい生活を考える） 第10回 高齢者と介護と制度（介護保険制度、徘徊から学ぶ、音楽療法） 第11回 雇用（雇用、就職氷河期、新卒応援ハローワーク、退職時の保険、雇用のミス・マッチ） 第12回 社会福祉の歴史（第2次世界大戦後・高度成長期） 第13回 社会福祉の歴史（平成の社会福祉） 第14回 生活保護制度 第15回 グループワーク発表、事後学習、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業内で配布される「学習シート」の復習（小テスト、グループワーク、レポート等のために）をする。 (2) グループワークの提出用の事前学習と事後学習の提出物の作業を行う。 (3) 視覚教材を観た後の提出用の学習メモの作成をする。 						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義型授業と双方向授業 (2) 視覚教材（主にDVD） (3) グループワーク（発表する内容をグループで考え、構成して発表までの過程） 						
評価基準と評価方法	小テスト（2回）50%、平常点（グループワーク、視覚教材に関する作業）30%、レポート20%						
教科書	使用しない。授業中に配布する「学習シート」を使用。						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「その子をください」 鮫島浩二、アスペクト (2) 「ほしになったぼくのおとうと」 鮫島浩二、アスペクト (3) 「平穏死 10の条件」 長尾和宏、ブックマン社 						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生涯発達心理学A						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では胎児期・乳児期・幼児期・児童期を扱う。</p> <p>個体の発達的変化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、子どもの発達について、各発達段階の特徴を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは～胎児期の発達（性の分化） 2. 発達初期におけるヒトの特殊性 3. 発達の一般的傾向 4. 発達課題・発達段階 小テスト1（範囲：1～4） 5. アヴェロンの野生児（映画鑑賞） 6. 野生児の記録 7. 遺伝と環境 8. 前半の補足とまとめ 小テスト2（範囲：5～8） 9. 愛着理論と親子関係 10. 愛着行動と測定 11. 知覚の発達 小テスト3（範囲：9～11） 12. 感情の発達 13. 思考の発達 14. 後半の補足とまとめ 小テスト4（範囲：12～14） 15. 全体のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回の授業で復習チェック、もしくは小テスト（計4回）を実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト55%，小テスト30%，授業態度15%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生涯発達心理学B						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。</p> <p>前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、青年期以降の人間の発達について、各発達段階の特徴と現代社会が抱える問題点を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション～世代を超えた発達の影響 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. アイデンティティの形成 ―エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達・小テスト1（範囲：1～4） 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 ―現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ・小テスト2（範囲：5～9） 10. 配偶者選択 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化問題の現状 13. 少子高齢化社会におけるライフプラン 14. 後半の補足とまとめ・小テスト3（範囲：10～14） 15. 全体のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回の授業で復習チェック、もしくは小テスト（計3回）実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト55%、小テスト30%、授業態度15%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を取ること、とは何か？）						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、エネルギー代謝、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考えてみる習慣を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物の消化と吸収のしくみ 2. 栄養分の循環と老廃物の排泄 3. 蛋白質の代謝 4. 糖質の代謝 5. 脂質の代謝 6. 薬物や異物の代謝 7. ミネラルの代謝 8. ビタミンの役割 9. ホルモン・自律神経の働きと恒常性 10. 食欲の調節機構 11. エネルギー代謝 12. 健康食品について 13. 生活習慣病 14. 飲酒と喫煙 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（第3版、脊山洋右、野口忠、編、新スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1669-6）。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	自然科学史A						
担当教員	古田 雅一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に科学技術の芽生えが見られる古代文明、古代ギリシャで結実した科学の古典的枠組みの成立と中世における変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます。						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを紀元前4000年頃の古代ギリシャから近代に至るまで包括的に論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、地球の誕生から生命の誕生へ(化石が示す生物の進化) 第3回、地球環境の変化と生物の進化 第4回、ヒト(ホモサピエンス)の誕生、 第5回、第6回、科学の黎明Ⅰ(先史時代：火の使用、古代メソポタミア、古代エジプト、古代インド) 第7回、第8回、科学の黎明Ⅱ(古代ギリシャ、古代ローマ、古代中国における科学の萌芽) 第9回、中間まとめ 第10回、中世をリードしたイスラム科学(錬金術、数学、物理学、天文学など) 第11回、中世ヨーロッパの科学(キリスト教的世界観の下での科学技術の動向) 第12回、ルネサンス時代の科学(芸術の復活、再生の中で科学技術の推移) 第13回、大航海時代の科学技術 第14回、近代科学の幕開け(近代ヨーロッパの形成と科学技術の推移発展) 第15回、授業の総まとめとレポートの書き方						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極的質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	「科学は歴史をどう変えてきたか：その力・証拠・情熱」マイケル・モーズリー 他2名著 東京書籍 その他必要に応じてプリント配布						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；1-4 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	自然科学史B						
担当教員	古田 雅一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に中世以降の自然科学の発展と変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを、特に中世以降の科学の飛躍的な発展について論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、花開く近代科学の時代Ⅰ(科学的思考の芽生え、宗教的世界観からの独立) 第3回、花開く近代科学の時代Ⅱ(16～17世紀に活躍した科学者たち：物理、天文学) 第4回、花開く近代科学の時代Ⅲ(16～17世紀に活躍した科学者たち：化学、生物学) 第5回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅰ 第6回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅱ 第7回、中間まとめ 第8回、現代科学の幕開けⅠ(産業革命前夜の歴史、世相と科学技術) 第9回、現代科学の幕開けⅡ(産業革命に伴う資本主義の発展と科学技術) 第10回、20世紀の科学の光と影Ⅰ(20世紀の科学の巨人たち、物理学) 第11回、20世紀の科学の光と影Ⅱ(20世紀の科学の巨人たち、科学、生物学) 第12回、20世紀の科学の光と影Ⅲ(20世紀の戦争と科学技術) 第13回、現代の科学Ⅰ(第二次世界大戦後の科学) 第14回、現代の科学Ⅱ(現代の最先端科学とこれからの科学の方向性は) 第15回、授業の総まとめ、レポートの書き方						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極的質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	「科学は歴史をどう変えてきたか：その力・証拠・情熱」マイケル・モーブリー 他2名著 東京書籍 その他必要に応じてプリント配布						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；5-13 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、講義リアクションシート（20%）を総合して評価します。						
教科書	自ら実感する心理学 土井伊都子編 保育出版社						
参考書	特に無し						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、講義リアクションシート（20%）を総合して評価します。						
教科書	自ら実感する心理学 土井伊都子編 保育出版社						
参考書	特に無し						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの基礎						
授業の概要	心理学は「こころ」を研究する科学である。この授業では、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、性格心理学、臨床心理学などの様々な研究領域について、その基礎的な内容を幅広く紹介する。さらには健全で幸福な日常生活に役立つ様々な心理学的知見を提供する。毎回の授業では、日常生活に役立つテーマを選択し、様々な映像教材やワーク形式の体験型学習を取り入れている。この授業によって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心が持てるようになり、よりよく生きるためのヒントを得て欲しい。						
到達目標	心についての基礎知識が身につく。 人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。 よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～あなたのパーソナルカラーは？～ 第4講 記憶1 ～記憶力UPのコツ～ 第5講 記憶2 ～人はなぜ忘れるのか～ 第6講 学習 ～メリットの法則～ 第7講 性格1 ～エゴグラムによる自分探し～ 第8講 性格2 ～バウムテストによる自分探し～ 第9講 臨床1 ～ストレス対処法～ 第10講 臨床2 ～『ツレうつ。』で学ぶうつ病～ 第11講 臨床3 ～認知療法～ 第12講 社会1 ～自己とアサーション～ 第13講 社会2 ～恋愛の心理学～ 第14講 おわりに 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	中原 朝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーは、私たちが当たり前とってきた性に関する様々な思い込みを問い直す重要な概念です。「性」が社会的に構築されたものであるということを学問領域に持ち込む契機となったウーマン・リブの活動、そして女性学の成果を踏まえ、「性」をめぐる様々な社会問題、中でも家族や労働に関するジェンダーを中心的に取り上げ、それにまつわる論争や政策の変遷を学修する。						
授業の概要	本授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられてきた性差）を、その社会がどのように認識し、意味づけているかを明らかにし、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているのかを見抜く視点を共有する。中でも、家族や労働におけるジェンダーを中心的に取り上げ、日本の家族および労働市場に、ジェンダーがどのように組み込まれているかを、家族政策および労働政策、職場の雇用管理を中心に検討する。						
到達目標	性をめぐる問題が、社会的に構築されたものであるということを理解できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価の方法等） 第2回 フェミニズムの思想 第3回 ウーマン・リブの活動 第4回 母性保護論争 第5回 主婦論争 第6回 家事労働論争 第7回 ケア労働 第8回 感情労働 第9回 非正規労働とジェンダー 第10回 家計とジェンダー 第11回 貧困・社会的排除とジェンダー（1） （貧困の概念：言説：計測方法） 第12回 貧困・社会的排除とジェンダー（2） （貧困の実態） 第13回 災害とジェンダー 第14回 ジェンダー問題についてのディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマ毎に授業でとりあげる文献を示すので、読んでおくのが望ましい。						
授業方法	資料を用いた講義形式の授業とともに、ビデオ等の視聴を行う。						
評価基準と評価方法	課題提出（30%）、期末レポート（60%）、平常点（10%）から、判断する。						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と健康						
担当教員	西川 央江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の心身の健康についての正確な情報、知識の修得						
授業の概要	健やかに生きるという事は、すべての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することである。特に女性は妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、心身の両面からの配慮が必要になってくる。本授業では、基礎知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成について様々な観点から考える。そして、学んだ正しい情報・知識を基に、女性としての自身の健康をより向上させる実際の能力を身に付けることを学ぶ。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解できる 2. 女性の健康の保持と向上に必要な情報、知識が理解できる 3. 自分の健康の課題を見つけそれに対して具体的な改善方法を実施できるようになる。						
授業計画	第1回 女性の健康概念と基本理論（ジェンダー セクシャリティ） 第2回 女性の健康概念と基本理論（リプロダクティブ・ヘルス／ライフ） 第3回 生涯を通じた女性の健康（思春期までの成長発達） 第4回 生涯を通じた女性の健康（月経とホルモン 喫煙・薬物問題） 第5回 生涯を通じた女性の健康（月経困難症 性感染症 がん検診） 第6回 生涯を通じた女性の健康（妊娠 避妊 中絶） 第7回 生涯を通じた女性の健康（摂食障害 思春期に起きやすい心身症） 第8回 生涯を通じた女性の健康（出産 子育て 虐待） 第9回 生涯を通じた女性の健康（ドメスティックバイオレンス） 第10回 生涯を通じた女性の健康（ライフワークバランスとメンタルヘルス） 第11回 生涯を通じた女性の健康（閉経期の健康と介護課題） 第12回 生涯を通じた女性の健康（スマートライフプロジェクトと骨・関節の健康） 第13回 生涯を通じた女性の健康（閉経後の健康と血管・皮膚の管理） 第14回 生涯を通じた女性の健康（パートナーとしての男性の健康） 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に次回の授業内容を告知するので、メディアや文献から情報を得て置く。 また、授業内容に関係する自分の健康状態を観察する。 授業後学習：授業の内容をまとめ、自分の健康課題を見つけ改善策を考えて実行する						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、提出物50%						
教科書	プリント配布						
参考書	「リプロダクティブヘルス／ライツ」 北村邦夫著 メディカ出版						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。 また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。 講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的な理解を得ること。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前配布プリントを読んでくること						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
教科書	なし						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	<p>婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。</p> <p>また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。</p> <p>講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。</p>						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的な理解を得ること。						
授業計画	<p>以下の要領で授業を実施する。</p> <p>第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前配布プリントを読んでもらうこと。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年） 						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	巽 真理子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアにおける女性の表象						
授業の概要	複雑化する現代社会においては、人と社会のかかわりや時代の変化を敏感に察知し、多様な課題にも目配りのできる資質や能力がますます求められている。本講義では、そのなかでも、ジェンダーに着目する。メディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性や男性のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。						
到達目標	さまざまな女性の表象を考察することによって、私たちを取り巻くジェンダーイメージや問題を認識し、自分らしい生き方についての意見を持つ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとジェンダーをどう学ぶか 第3回 マスメディアとジェンダー 第4回 雑誌とジェンダー（1）ファッション誌 第5回 雑誌とジェンダー（2）子育て誌 第6回 雑誌とジェンダー（3）教育誌 第7回 雑誌とジェンダー（4）まとめ 第8回 ミニコミとジェンダー 第9回 インターネット、ソーシャルメディアとジェンダー 第10回 アニメ番組が描く家族とジェンダー（1） 第11回 アニメ番組が描く家族とジェンダー（2） 第12回 メディアリテラシー（1）作って発信するメディア 第13回 メディアリテラシー（2）メディアを利用する 第14回 メディアリテラシー（3）批判的にメディアを見る 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	関連する報道等を積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	期末テスト（60％）・リアクションペーパーなどの平常点（40％）						
教科書	特になし						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶ。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力を養い、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことを目指す。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 第3回：英米の絵本における冒険2 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』 第6回：アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台 第7回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第14回：『ふしぎの国のアリス』における冒険 第15回：まとめ 児童文学における冒険の意味について						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストのなかの指定された章を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶ。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力を養い、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことを目指す。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 第3回：英米の絵本における冒険2 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』 第6回：アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台 第7回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第14回：『ふしぎの国のアリス』における冒険 第15回：まとめ 児童文学における冒険の意味について						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストのなかの指定された章を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論および研究の紹介						
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します。また、各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます。自身で研究計画を立てその解法を導きだせるようになることを期待します。						
授業計画	<p>第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第11回目：パーソナリティの測定法（2） 第12回目：実験（研究）計画法（1） 第13回目：実験（研究）計画法（2） 第14回目：試験及び復習（試験は90分） 第15回目：まとめ</p> <p>#進度は適宜調整するため、内容が前後することもあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします。原則、配布は行わないため、授業前にダウンロードしておいてください。URLは http://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/ です。パスワードは初回に紹介します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験のみ						
教科書	なし						
参考書	講義中に紹介						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生活システムII (流通・マーケティング)						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	大ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。大手メーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、消費者の視点からマーケティングの具体的なケースを取り上げ、理論と組み合わせながらマーケティングの理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①基本的なマーケティングの用語を理解し、商品開発の説明できるようになる。 ②商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ④人とモノの仕組みが理解できる。						
授業計画	第1回 マーケティング志向の経営 第2回 マーケティングの基本的概念 第3回 製品開発のマネジメント 第4回 ブランド・マネジメント 第5回 ブランドの意味と意義—消費者の視点と企業の視点— 第6回 広告活動のマネジメント 第7回 統合型コミュニケーションのマネジメント 第8回 営業のマネジメント 第9回 マーケティング・チャネルのマネジメント 第10回 ロジスティックのマネジメント 第11回 取引と価格のマネジメント 第12回 競争の分析①（ゲストスピーカー） 第13回 競争の分析② 第14回 マーケティングリサーチの方法 第15回 マーケティングの企画と実践（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容）	流行のものや話題のものを常に把握しておく。 新聞必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	「1からのマーケティング」、石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	目的： 青年期にかかわるさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的とします。 概要： 就労や恋愛など青年期にかかわる課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。						
到達目標	青年期にかかわる諸問題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。						
授業計画	第1回 大人？子ども？ ～生涯発達における青年期～ 第2回 家を出たい？出たくない？ ～青年期の親子関係～ 第3回 働くとは？ ～青年期の就活・就職(1)～ 第4回 就活不安の正体 ～青年期の就活・就職(2)～ 第5回 楽しく働くとは？ ～青年期の就活・就職(3)～ 第6回 働かないとダメですか？ ～NEET・引きこもりの心理(1)～ 第7回 働かない人の意義 ～NEET・引きこもりの心理(2)～ 第8回 愛するとは？ ～青年期の恋愛・結婚(1)～ 第9回 結婚したい？したくない？ ～青年期の恋愛・結婚(2)～ 第10回 愛する病 ～DV・ストーカーの心理～ 第11回 うつ・自殺 ～青年期の精神疾患(1)～ 第12回 統合失調症 ～青年期の精神疾患(2)～ 第13回 心理療法という繋がり ～青年期の精神疾患(3)～ 第14回 まとめと試験 第15回 課題発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習： 青年期の課題や臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください。 授業後学習： 授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材発見カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(授業レポート、素材発見カード) 60% 期末試験 20% 課題(授業内ワークのまとめ、もしくは課題発表) 20%						
教科書	プリントを配布します						
参考書	授業内で紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生物学入門／くらしと科学I						
担当教員	吉野 健一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中の身近なトピックスから生物学を学ぶ						
授業の概要	人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学の知識は不可欠です。iPS細胞、クローン生物、BSE（牛海綿状脳症）、遺伝子組み換え食品、ワクチン、新型インフルエンザウイルスなど、報道やテレビ番組でよく見聞きする生物学や医学に関する身近なトピックスを取り上げて科学的に解説します。さらに、特に女性として健康で幸福な生活を送るために有用な生物学的・医学的知見を紹介しながら、より良い生活を送るために科学的な知識や客観的な思考力が大切であることを学びます。						
到達目標	人間も生物の一種であり、われわれ人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学的な知識は不可欠です。女性として健康で幸福な生活を送ることができるための一助となる基礎的な生物学の知識を習得し、その理解を深めることを目標とします。また生物学と医学とは深い関連があり、生物学が人類の福祉に大きく貢献していることを理解し、健康に関する身近な話題を生物学的な視点から考えることができるようになることを目標とします。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：新しい感染症を理解しよう。 第5回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第8回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：ヒトの初期発生を理解しよう 第13回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点 第15回：クローンとiPS細胞を理解しよう						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画の内容に関係した報道に日頃から関心をもって接してください。 授業後学習：学んだ内容に関係した報道に関心を持ち続け、理解を深める努力を続けてください。						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出する小レポート（ノート形式）60% 期末レポート40%。 単位の取得には10回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 講義ごとに提出する小レポートが0点の場合は欠席扱いとします。						
教科書	なし。ノート形式のプリントを毎回配布します。						
参考書	『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	西洋古典入門IA (ギリシアの神話と文学)						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成(叙事詩、叙情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々)は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義を失ってはいない。そして彼らの文学も哲学も歴史も美術も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。						
到達目標	①古代ギリシアの神話と文学について基礎的な知識をもつ。 ②神話と神話の文学を学び楽しむための語彙力・読解力を身につける。						
授業計画	第1回 神話(mythos, myth, mythology)とは何か? ギリシア神話の原典は? 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位簞奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』、小テスト① 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス、不条理を生きる 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス他、小テスト② 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト2回30%、期末テスト40%で評価する。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に会う』 西村賀子著 中公新書 ISBN4-12-101798-6						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ギリシア語初歩						
授業の概要	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代のギリシア語のことである。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西洋文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新訳聖書などを原語で読んだり、研究したりするためだが、この授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味関心を高めることを目的として、ごく簡単な文法を学び、簡単な文章を訳読する。						
到達目標	ギリシア文字を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なギリシア語の文章を理解できるようにすること。						
授業計画	第1回：古典ギリシア語について、ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第2回：発音（二重母音、注意すべき子音、氣息記号） 第3回：発音（音節とアクセント） 第4回：動詞の変化(1)―直説法能動相現在人称変化 第5回：第一変化名詞(1) 第6回：動詞の変化(2)―直説法能動相未来人称変化 第7回：第一変化名詞(2) 第8回：動詞の変化(3)―直説法能動相未完了過去人称変化 第9回：第二変化名詞 第10回：第一第二変化形容詞 第11回：前置詞 第12回：動詞の変化(4)―直説法能動相アオリスト人称変化 第13回：簡単なギリシア語の文章を読む：現在時称 第14回：簡単なギリシア語の文章を読む：未完了時称と未来時称 第15回：簡単なギリシア語の文章を読む：アオリスト時称						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の復習、宿題の練習問題						
授業方法	教科書に沿って文法事項を学び、練習問題を解いてゆく						
評価基準と評価方法	授業への参加度や学習態度、課題の達成度、小テストなどを総合した平常点100%で評価する。						
教科書	田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）ISBN4-00-020125-5						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウィーン体制 2. 諸国民の春 3. イタリアとドイツの統一 4. 帝国主義 5. 第1次世界大戦 6. ロシア革命 7. ヴェルサイユ条約 8. 戦後復興と協調外交 9. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦の始まり 12. 雪解けと軍拡競争 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウィーン体制 2. 諸国民の春 3. イタリアとドイツの統一 4. 帝国主義 5. 第1次世界大戦 6. ロシア革命 7. ヴェルサイユ条約 8. 戦後復興と協調外交 9. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦の始まり 12. 雪解けと軍拡競争 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりすることは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体どこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの意見をまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 知覚統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第5講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～リラックスをためよう～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、「放浪」という概念について 2. 漂泊：『オデュッセイア』 3. 冒険小説を読みすぎた男：セルバンテス『ドン・キホーテ前編』 4. 冒険小説で読まれた男：セルバンテス『ドン・キホーテ後編』 5. 演劇への道：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 6. アメリカへ：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』 7. ロマン主義：アイヒェンドルフ『のらくろ者日記』 8. 悪魔との旅：ゲーテ『ファウスト』 9. 遊民：リルケ『マルテの手記』 10. 一日：ジョイス『ユリシーズ』 11. ユダヤ人：ロート『放浪のユダヤ人』 12. 大都会：デーブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』 13. 避難民：ケステン『ゲルニカの子供たち』 14. 従軍：ブレヒト『母アンナの子連れ従軍記』 15. ドライブ：ナボコフ『ロリータ』、小テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業でとりあげる作品を読んで、授業のときの印象と比較考察しましょう。それを感想文として提出すれば平常点に加点します。参考図書のいずれか一冊に目を通すと、よい予習・復習となります。						
授業方法	講義。講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	感想（ほぼ毎回）90%、小テスト10% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。平常点を補うために感想文を提出してもよい。最終回に初歩的理解を確認する小テストを実施する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	<p>ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653</p> <p>ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165</p> <p>トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、「住まい」について 2. 合理的な暮らし：モア『ユートピア』 3. 孤島にただ一人：デフォー『ロビンソン・クルーソー』 4. 空想の異世界：スウィフト『ガリバー旅行記』 5. 大航海：フォスター『世界周航記』 6. 孤島に一家のみ：ウィース『スイスのロビンソン』 7. アウトドア：ソロ『ウォールデン 森の生活』 8. 社会主義：チェルヌイシェフスキー『何をなすべきか』 9. 大自然と大都会：シュペーリ『アルプスの少女ハイジ』 10. 豪邸：マン『ブッデンブローク家の人びと』 11. 丁寧な暮らし：モンゴメリ『赤毛のアン』 12. 引きこもり：コクトー『恐るべき子供たち』 13. 開拓：ワイルダー『大きな森の小さな家』 14. 収容所：フランクル『夜と霧』 15. 未開社会：ストロース『悲しき熱帯』、小テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業でとりあげる作品を読んで、授業のときの印象と比較考察しましょう。それを感想文として提出すれば平常点に加点します。参考図書のいずれか一冊に目を通すと、よい予習・復習となります。						
授業方法	講義。講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	感想（ほぼ毎回）90%、小テスト10% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。平常点を補うために感想文を提出してもよい。最終回に初歩的理解を確認する小テストを実施する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	<p>ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653</p> <p>ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165</p> <p>トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	田中 良晴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	環境問題と人間						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されています。それらを理解し考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題と取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察します。						
到達目標	講義のみならず質疑応答を取り入れ、それを講義に反映させることにより、環境問題に関する広い分野の基礎知識習得の他、書籍・マスコミ・インターネットの莫大な情報を俯瞰でき、偏りのない多面的な見方・考え方が身につけられるようになることを目指します。						
授業計画	第1回 環境科学のための化学（オリエンテーション、環境問題概要も） 第2回 環境科学のための生物学－原子・分子を中心に 第3回 環境科学のための生物学－自然システムを中心に 第4回 環境科学のための地学・物理学 第5回 個別の問題－温暖化 第6回 個別の問題－酸性雨 第7回 個別の問題－オゾンホール 第8回 個別の問題－バイオテクノロジー等 第9回 個別の問題－環境ホルモン、中間試験第10回 個別の問題－電磁波（放射線以外、紫外線、マイクロ波等） 第11回 個別の問題－放射線と環境、放射線科学の基礎、放射線や放射性物質の種類、単位、有用性と有害性 第12回 個別の問題－放射線と生物特に人間とのかかわり、チェルノブイリ・福島原発事故、核兵器 第13回 人間の病気と環境 第14回 まとめ－東洋思想と環境問題、理想的な社会・地球はありうるのか？ 第15回 質疑・討論と筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：各授業項目の前までに、関連事項に関する書籍・新聞等を読んで下さい。 授業後学習：予習したことや講義内容をレポート用紙にまとめる癖をつけてください。それにより理解力が深まり、多面的な見方・考え方や批評精神も養えるはずです。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト・中間テスト30点、平常点30点、筆記試験40点						
教科書	特に指定無し。						
参考書	授業時に提示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学です。この授業では、古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ、哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容について学びます。						
授業の概要	西洋において哲学的思考が誕生した古代ギリシア、そして西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀までに登場した哲学者のなかから、とくに重要な人物の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容をできるだけわかりやすく講義します。授業ではテキストの解説をおこなうとともに、適宜、授業のテーマと関連する現代的なトピックを扱った参考資料を配布して、そのことからの哲学的意味を明らかにして、われわれが生きているこの現代における哲学的思考の意義を解説します。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や本の名前を記憶することではありません。哲学は、人が生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点に立ち戻って、事柄の根源的な意味を洞察しようとする学問です。われわれが直面する問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まり論理的・反省的にその問題自体の意味を深く考えるときに、哲学という営みが始まります。いろいろな重要な問題に対して、それらをどのようにとらえ、どのように対応すべきなのかことを根源から考えようとする態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 理想の国家とは？－プラトンの理想国家 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 経験論とモリヌクス問題 12 カントの哲学－コペルニクスの転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜額 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前の予習は必要ありません。授業の後に自分でもう一度テキストを開いて、授業で扱った箇所を読み返して、授業で解説されたことの内容を確認し、理解を深めるようにしましょう。哲学書の原典を独力で読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識をもとにして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関する解説書を自分の手にとってゆっくりでもよいですから読むことによって、授業の内容の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012 ISBN:978-4121021878）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日仏比較文化A						
担当教員	川口 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	フランスの文化やフランス人のものの見方について色々な角度から接近し、理解を深めることを目指す。同時に日本の文化や日本人のものの見方に関して調査し、フランスの場合と比較する。その中で日本を改めて見直す機会も持つことを希望している。また、フランスの最新ニュースも紹介し、それを通して現代社会が抱える問題についても考察する。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができる。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめ、発表することができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに：アンケート 第2回 フランスの地理 第3回 日本の地理 第4回 フランスの歴史1 古代～近世 第5回 日本の歴史1 古代～近世 第6回 フランスの歴史2 近代～現代 第7回 日本の歴史2 近世～現代 第8回 両国の歴史を比較する 第9回 フランスの祝日 第10回 日本の祝日 第11回 フランスにおけるカップルのありかた 第12回 日本におけるカップルのありかた 第13回 フランスで働く外国人、難民受け入れ 第14回 日本で働く外国人、難民受け入れ 第15回 多文化共生社会について考える						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日本についてデータ収集をしてきてください。授業中に発表してもらいます。 授業後学習：各テーマごとに、特に興味を抱いた内容に関してさらに調査を続けてください。それをまとめて、レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力を養っていきます。						
授業方法	講義と演習を交互に行います。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（各テーマに関するレポート25%、授業中発表20%、毎回の小レポート5%） 学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日仏比較文化B						
担当教員	川口 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	日仏比較文化Aから引き続き、フランスと日本の比較を通して日仏両文化の理解を同時に深めていく。履修者は各自、日仏比較に関するテーマを一つ選んで授業中に発表し、最後にレポートとしてまとめることを目指す。発表者以外の出席者も全員、必ずコメント求められるので、しっかりと発表を聞いて、自分の考えを言葉で表現するように努めること。発表と並行して、日本から見たフランス、フランスから見た日本、および両国の現代社会が抱える問題についての考察も行う。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができる。「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるとという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめていくことができるようになる。他の人々の発表に対してコメントする、発表者はそれに対して答えることで、より自分の考えを深め、言葉で表現できるようにもなる。						
授業計画	第1回 はじめに：発表日程決定とグループ発表準備 第2回 グループ発表：日本の雑誌に見るパリ 第3回 日本で紹介されるパリ、フランス 第4回 付加価値税と日本の消費税 第5回 研究発表＋討論（1） 第6回 研究発表＋討論（2） 第7回 研究発表＋討論（3） 第8回 研究発表＋討論（4） 第9回 研究発表＋討論（5） 第10回 研究発表＋討論（6） 第11回 研究発表＋討論（7） 第12回 研究発表＋討論（8） 第13回 フランス人と日本人の休み方 第14回 フランス人と日本人の価値観 第15回 フランスから見た日本						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表に備えて、日仏両方のデータを収集し、まとめてきてください。 授業後学習：発表に対するコメントに答えながら、両文化の比較をさらに進めてください。それをまとめて、学期末レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力も養っていきます。						
授業方法	演習を中心に、講義の時間も取りながら進めます。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（研究発表25%、授業内作業〔討論での発言・コメント用紙等〕20%、毎回の小レポート5%） 学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の歴史						
担当教員	李 芝映						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	原始から現代にいたる日本歴史の概説						
授業の概要	この授業では、原始から現代まで、日本の歴史を学びます。この授業が目指すのは、歴史的な人物・事件・項目の概説を通じて、歴史的「事実」を知ることではありません。これまで中学校・高校で学んできた日本の歴史を新たな視点からとらえなおすことを目標としています。果たして歴史教科書に書かれているのは不変の「事実」でしょうか。昭和時代の教科書と平成時代の教科書を比較しながら、何がどのように変わってきたのかを確認し、その意味について考えてみます。それを通じて歴史一般の理解、または日本の歴史についての理解を深めていきます。						
到達目標	1. 日本史に関する知識を習得する。 2. 日本史の教科書がどのような知識や仕組みによって書かれているのかを理解する。 3. 歴史の理解を通じて現代に対する理解を深める。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ：歴史とは何か。歴史はどのように書かれてきたのか。 第2回 人類の出現から農耕社会の成立 ：人類はいつ出現し、どう生きていたか。 第3回 古墳時代～奈良時代 ：誰がどう権力を握ったか。それはどう現れたか。 第4回 平安時代～鎌倉時代 ：律令国家はどう成立したか。そしてなぜ滅びたか。 第5回 鎌倉時代～室町時代 ：国家と宗教の関係は何か。モンゴル来襲で「神風」は吹いたか。 第6回 室町時代～戦国時代 ：政権の分裂と戦乱。 第7回 戦国時代 ：戦乱から統一国家へ。 第8回 江戸時代 ：江戸幕府はどのように社会を安定していったか。 第9回 江戸時代 ：江戸時代は「鎖国」の時代だったのか。 第10回 江戸時代 ：江戸時代の百姓。 第11回 江戸時代～明治時代 ：ペリーはなぜ日本に来航したか。 第12回 明治時代 ：「四民平等」とは何か。 第13回 明治時代～大正時代 ：日清・日露戦争をめぐる評価。 第14回 昭和時代 ：終戦記念日は8月15日か。 第15回 昭和時代 ：高度経済成長は日本社会をどう変えたのか。						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の授業で参考資料を紹介します。各自の関心に応じて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						

参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介します。
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本史A						
担当教員	李 芝映						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の教育史－歴史から教育を問い直す。						
授業の概要	今まで私たちが通ってきた「学校」はいつできたのか。人々はなぜ学んできたのか。学ぶべきことをだれが決めたのか。この授業では、このような教育に関するあらゆる問いを、日本の歴史を通して考えてみます。古代から中世を経て、「教育の爆発の時代」といわれる近世を中心として、いかなることが学ばれたのか、どのように学ばれたのかを概観します。そして、現在の教育制度の原型と見られる明治時代の教育制度が、何を目的として、どう作られてきたのかをみます。これらを通して、現代の教育を考え直すことを試みます。						
到達目標	1. 日本教育史に関する知識をえて、理解を深める。 2. 社会における教育の意味・役割を理解する。 3. 歴史的な視点から、新たな教育の可能性を模索する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 教育を歴史の観点から問い直す。 第2回 教育とは何か。なぜ学ぶのか。 第3回 「学校」はいつできたのか。 第4回 「学問」とは何か。「学問」はだれが学ぶのか。 第5回 「勉強」時代の幕あげ 第6回 「勉強」ブーム 第7回 教育と日常 第8回 教育と教養 第9回 教育と政治 第10回 近代教育のはじまり 第11回 国家と国民、そして教育①: 教育議論争、修身教育、教育勅語 第12回 国家と国民、そして教育②: 「立身出世」、等級制、学級制 第13回 日常の生活と教育 第14回 戦争と教育 第15回 現在私たちにとって教育とは何か。						
授業外における学習(準備学習の内容)	各回の授業で参考資料を紹介しします。各自の関心に応じて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介しします。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本史B						
担当教員	李 芝映						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	江戸時代の書物史－江戸時代の人々は何を考え、何を書き残したのか。						
授業の概要	本が商業的な意図を持って本格的に出版され始めたのは江戸時代です。それは本を書く人(著者)がいて、本を読む人(読者)が存在していたからこそできたことです。とすれば、江戸時代の人々はなぜ本を読んだのでしょうか。またはなぜ本を書いたのでしょうか。この授業では、本というメディアを通じて、江戸時代の人々の「知」のあり方を概観します。よい人間になるための「知」、豊かな生活のための「知」、長生きするための「知」、よい政治を行うための「知」など、あらゆる「知」のあり方を概観します。そして、その「知」のなかみを通じて、江戸時代の人々が社会・政治・人間に関してどう理解していたのかを学びます。						
到達目標	1. 江戸時代に関する知識を習得する。 2. 江戸時代の社会像を理解する。 3. 江戸時代の文献が読める。						
授業計画	第1回 オリエンテーション : 「書かれたもの」が伝えてくれること。 第2回 江戸時代の概観① : なぜ江戸時代に商業出版ができたのか。 第3回 江戸時代の概観② : 江戸時代に文字が読める人は何%だったのか。 第4回 江戸時代に本はどう作られたのか。 第5回 江戸時代に本はどう売られたのか。 第6回 江戸時代に本は誰が書いたのか。 第7回 江戸時代に本は誰が読んだのか。 第8回 本はなぜ読まれたのか① : 「知」と道徳 第9回 本はなぜ読まれたのか② : 「知」と政治 第10回 本はなぜ読まれたのか③ : 「知」と経済 第11回 本はなぜ読まれたのか④ : 「知」と医療 第12回 本はなぜ読まれたのか⑤ : 「知」と教養 第13回 広がる「知」のネットワーク 第14回 「知」の伝達としての教育 第15回 江戸時代の女性と書物						
授業外における学習(準備学習の内容)	各回の授業で参考資料を紹介します。各自の関心に応じて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本古典文学と現代						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出される様々な日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを知る。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを理解する。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かを考察する。						
授業計画	第1回：日本文学史 概観Ⅰ 奈良・平安・院政期 第2回：日本文学史 概観Ⅱ 鎌倉・室町・江戸 第3回：漢字で日本語を表すこと—日本書紀・古事記・万葉集 第4回：いろは歌と五十音図 第5回：七五調—万葉集・古今和歌集・今様・平家物語 第6回：日本の暦と季節感 第7回：和歌集の四季—古今和歌集・新古今和歌集 第8回：恋の発端—古今和歌集・伊勢物語・源氏物語 第9回：もの思う女性たち—蜻蛉日記・源氏物語 第10回：日記という文化—漢文日記・土佐日記 第11回：記録する意志—枕草子・方丈記 第12回：昔話の系譜—浦島太郎・竹取物語 第13回：盛者必衰Ⅰ—平家物語 祇園精舎 源義仲 第14回：盛者必衰Ⅱ—平家物語 壇ノ浦 第15回：世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容をまとめ、自分なりの疑問点を見つけておく。 それを次の授業で書いてもらう。 また、次回までに調べてくることを授業中に指示する。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本古典文学と現代						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出される様々な日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを知る。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを理解する。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かを考察する。						
授業計画	第1回：日本文学史 概観Ⅰ 奈良・平安・院政期 第2回：日本文学史 概観Ⅱ 鎌倉・室町・江戸 第3回：漢字で日本語を表すこと—日本書紀・古事記・万葉集 第4回：いろは歌と五十音図 第5回：七五調—万葉集・古今和歌集・今様・平家物語 第6回：日本の暦と季節感 第7回：和歌集の四季—古今和歌集・新古今和歌集 第8回：恋の発端—古今和歌集・伊勢物語・源氏物語 第9回：もの思う女性たち—蜻蛉日記・源氏物語 第10回：日記という文化—漢文日記・土佐日記 第11回：記録する意志—枕草子・方丈記 第12回：昔話の系譜—浦島太郎・竹取物語 第13回：盛者必衰Ⅰ—平家物語 祇園精舎 源義仲 第14回：盛者必衰Ⅱ—平家物語 壇ノ浦 第15回：世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容をまとめ、自分なりの疑問点を見つけておく。 それを次の授業で書いてもらう。 また、次回までに調べてくることを授業中に指示する。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶA						
担当教員	恵阪 友紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受の研究						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その後も長く読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。影響は文学作品だけにとどまらず、書や絵画をはじめ、美術工芸など文化全般に享受され、多くの作品を生み出している。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さをうかがうことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>美術・工芸品について理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解することができる						
授業計画	第1回 平安文学と美術・工芸品についての概説 第2回 『古今和歌集』の写本 第3回 屏風歌と屏風絵 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 『平家納経』などの装飾経 第9回 国宝『源氏物語絵巻』 第10回 『伊勢物語絵巻』 第11回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品については、書籍以外にもテレビ番組や展覧会などに取り上げられることが多い。興味を持って自ら作品に触れる機会を設けること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（20％）、課題（20％）						
教科書	『すぐわかる 日本の伝統色』（改訂版） 福田邦夫著、東京美術、ISBN978-4-8087-0938-9 ※ プリントを併用する						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶB						
担当教員	大坪 亮介						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中世文学のなかの女性						
授業の概要	古典文学と女性といえば、平安時代に書かれた物語や日記を思い浮かべがちだが、鎌倉・室町時代にかけて生み出された作品にも、女性の姿は極めて印象的に描かれている。本授業では代表的な作品を取り上げ、絵巻などの周辺資料も視野に入れつつ、そこに描かれた様々な女性の姿を浮き彫りにしていく。						
到達目標	中世に生み出された代表的な古典作品の読解を通じて、中世社会に生きた女性の諸相を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『平家物語』①～権力者に翻弄された白拍子～ 第3回 『平家物語』②～武器を取り戦った巴御前～ 第4回 『平家物語』③～平家一族の鎮魂を担った建礼門院～ 第5回 『建礼門院右京大夫集』～戦場に散った恋人を思う～ 第6回 『問はず語り』①～後深草院の寵愛を受けた二条～ 第7回 『問はず語り』②～二条の遍歴～ 第8回 『問はず語り』③～母となった二条～ 第9回 『問はず語り』④～仏に仕える日々～ 第10回 『曾我物語』①～曾我兄弟の仇討ちと女性～ 第11回 『曾我物語』②～曾我兄弟の鎮魂と女性～ 第12回 謡曲のなかの女性①～鬼となった女性～ 第13回 謡曲のなかの女性②～我が子を求める母～ 第14回 狂言の中の女性～「わわしい」女～ 第15回 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習などは特に必要ないが、授業後はその日の学習内容を振り返っておくこと。授業中引用する古典本文の意味についてはこちらから解説を加えるが、中学・高校時代に学習した古典の内容（特に単語・文法）を復習しておけば、授業内容はより理解しやすくなるだろう。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	平常点50%、試験50%						
教科書	プリント配付。						
参考書	脇田晴子『中世に生きる女たち』（岩波新書、1995年） その他、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要について説明することができる。						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 「かぶき」前夜 風流の時代 第3回 「かぶき」誕生 出雲のお国 第4回 遊女かぶきから若衆かぶきへ 第5回 野郎かぶきの時代 第6回 元禄歌舞伎の成立 第7回 元禄期の興行システム 第8回 絵島事件から享保の改革 第9回 人形浄瑠璃と歌舞伎 第10回 人形浄瑠璃の歴史 第11回 歌舞伎と浄瑠璃の交流 義太夫狂言 第12回 18世紀後半の歌舞伎 天明歌舞伎 第13回 19世紀の歌舞伎 化政文化と歌舞伎 第14回 近代の歌舞伎 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学史A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学の歴史						
授業の概要	日本文学の歴史を考える。「日本文学史A」では主として古典文学として扱われているものの歴史を追う。日本の成り立ち、先人の培ってきた遺産、現代の古典文学需要のありさまを多角的に学ぶ。						
到達目標	日本文学の歴史について考えることを通じて、現在に生きる古典文学への理解を深める。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本について 第3回 文学史を考えること 第4回 上代文学 第5回 口承文学 第6回 中古文学 第7回 貴族の文学 第8回 中世文学 第9回 武士の文学 第10回 動乱の文学 第11回 近世文学 第12回 町人の文学 第13回 幕末の文学 第14回 現在に生きる古典・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	視野を広く持ち、古典文学作品を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』 双文社出版						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人間関係論						
担当教員	日道 俊之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学から考える人間関係						
授業の概要	現代社会の人間関係は日々複雑になっている。対面でのコミュニケーションだけではなく、SNS上での全く知らない相手との交流も増えており、これまでのコミュニケーションとは異なる側面が多々生まれてきている。本講義では社会心理学という「個人と社会の相互作用によって人間の行動がどのように変わるのか」を検討する学問の知見を用いて、人と人とのコミュニケーションが発生するときどのような心理メカニズムが働くのか、そしてこれからの社会においてどのように行動すべきなのかを解説・議論していく。						
到達目標	①人間関係にまつわる社会心理学的な知識、考え方の基礎を習得する。 ②自分の身の回りの人間関係を、社会心理学的視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：人間関係をどのように研究するか 第2回 自己呈示・自己開示 第3回 親密な人間関係 第4回 対人魅力 第5回 協力行動 第6回 信頼 第7回 他者理解①：他者との感情の共有 第8回 他者理解②：マインドリーディング 第9回 他者への思いやり 第10回 ソーシャル・ネットワーク①：社会的排斥 第11回 ソーシャル・ネットワーク②：ソーシャル・サポート 第12回 集団意思決定 第13回 リーダーシップ 第14回 マスメディア・インターネットを介したコミュニケーション 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、ときに心理学調査を体験していただきます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	平常点45%・試験55%とします。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 亀田達也・村田光二（著）「複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間— 改訂版」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12418-9 3. 北村英哉・大坪庸介（著）「進化と感情から解き明かす社会心理学」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12466-0 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに、よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～光と色の心理学～ 第4講 知覚3 ～三次元の世界～ 第5講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第6講 記憶2 ～感覚記憶と短期記憶～ 第7講 記憶3 ～長期記憶～ 第8講 問題解決 ～サバイバルゲーム～ 第9講 心の病と認知1 ～ストレスと認知～ 第10講 心の病と認知2 ～うつと認知～ 第11講 心の病と認知3 ～認知療法～ 第12講 社会的認知1 ～アサーション～ 第13講 社会的認知2 ～他者認知～ 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特徴を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べるができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう ～ コラールとグレゴリオ聖歌から～						
授業の概要	チャペルの大オルガンを用いて、パイプオルガン演奏の基礎的な実習を行う。レパートリーとしては、コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を取り上げる。曲に取り組む中で、パイプオルガンのタッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法といった基礎的奏法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖歌と教会歴について、楽曲を通して体感する。 2. コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏する。 3. グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏する。 4. 上記を演奏するに相応しいテクニックを身につける。 5. 松蔭のオルガンについて熟知し、様々なパイプの効果的な使い方を知る。 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認） 第3回 オルガン奏法の基礎②（レジストレーション） 第4回 オルガン奏法の基礎③（ペダル）</p> <p>第5回 楽曲への取り組み①（待降節のコラール） 第6回 楽曲への取り組み②（クリスマスのコラール） 第7回 楽曲への取り組み③（受難のコラール） 第8回 楽曲への取り組み④（イースターのコラール） 第9回 楽曲への取り組み⑤（ペンテコステのコラール） *主に「パイプオルガン入門B」において紹介したコラールに基づく小品を中心に、教会歴に沿ったオルガン作品の中から個人のレベルにあった曲を数曲選び、より完成した演奏に向けて取り組む。</p> <p>第10回 楽曲への取り組み⑥（プランジュ） 第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ） 第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ） *グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しいレジストレーションを知る。</p> <p>第13回 クラス内発表会での演奏の準備①（レジストレーションの工夫） 第14回 クラス内発表会での演奏の準備②（音を遠くで客観的に捉える訓練） 第15回 クラス内発表会とその講評 *学期中に取り組んだ楽曲の中から、コラールに基づく小品とグレゴリオ聖歌に基づく小品を1曲ずつ選び、演奏する。レジストレーションも各自の責任でできるように準備する。終了後は、お互いの演奏にコメントしあう時間を持ち、他の人の演奏を客観的に聴き、批評することを経験する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学内のオルガンでの個人練習						
授業方法	グループレッスン形式による実技						
評価基準と評価方法	平常点60%、実技試験（クラス内発表会）40%						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖公会 聖歌集 ・ルター派 教会讃美歌 ・「クラヴィス」大塚直哉編 						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	伊藤 純子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する						
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」パイプオルガン入門A B、パイプオルガン実技Aでの学びの集大成として、大オルガンでコラール変奏曲を演奏する。その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについての学びと、コラールの歌唱も行う。						
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。 ⑤コラール変奏曲演奏のための、大オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。 ⑥コラール変奏曲を、大オルガンで美しく演奏できるようになる。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方）</p> <p>第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱 第9回：コラール変奏曲の曲の構成について</p> <p>第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備</p> <p>第15回：試験 <実技試験>大オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 <筆記試験>講義内容について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	大オルガンの個人練習						
授業方法	解説、実習						
評価基準と評価方法	平常点60%、レポート20%、試験20%						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						
参考書	日本聖公会 聖歌集						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・映画・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして様々な作品表現や表現媒体（メディア）を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちに身近な親しい事柄、たとえばアリスやピーターラビットたちの思いがけない源に出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や興味関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わうことができます。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧近代文化の位置 3 西欧文化と日本文化の交流 4 [序論] 19世紀後半の歴史状況 欧米と日本 1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本 2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本 3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本 4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本 5（日本） 9 [総論] 文芸全体の様子 欧米と日本 1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本 2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本 3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本 4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本 5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・映画・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして様々な作品表現や表現媒体（メディア）を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちに身近な親しい事柄、たとえばアリスやピーターラビットたちの思いがけない源に出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常生活や興味関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わうことができます。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業・研究のガイダンス 2 [各論] 受講生自身の関心に沿った個別の芸術家や作品など 3 フランス（たとえば、モネ・ミュシャ・ヴェルレーヌ・ドビュッシー） 4 ベルギー（たとえば、メーテルリンク・アンソール） 5 ドイツ（たとえば、グリム・ワーグナー・ニーチェ） 6 オーストリア（たとえば、クリムト・ワルツ・フロイト） 7 イギリス（たとえば、ビアズリー・モリス・フランダーズの犬） 8 アメリカ（たとえば、ミュージカル・黒人霊歌・トムソーヤの冒険） 9 スペイン（たとえば、ガウディ・ピカソ・カタロニア） 10 イタリア（たとえば、オペラ・ピノキオ・未来派） 11 日本（たとえば、浮世絵・洋画・漱石・滝廉太郎・歌舞伎） 12 世紀末文化・現代芸術文化への射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼 申明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回 『遠い夜明け』鑑賞 15回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	被服の洗浄理論を説明することができる。 素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗濯機、家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白、しみ抜き 第10回：糊つけと仕上げ、衣服の保管 第11回：商業洗濯、取扱い絵表示 第12回：まとめと期末試験 第13回：学外研修事前学習 第14回：学外研修1 第15回：学外研修2						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR、学外研修						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％） 遅刻、欠席は平常点より減点する。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を挙示することができる。 着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：皮革、その他の天然繊維 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュプラ・アセテート 第9回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第10回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第11回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第12回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維、高機能繊維 他 第13回：まとめと期末試験 第14回：試験の復習と最終課題、学外研修の事前学習 第15回：学外研修、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）試験は中間と期末の2回おこなう。 遅刻、欠席は平常点より減点する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術史A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教西欧を中心に、写真誕生までの美術の歴史を「近代化」、「世俗化」という視点から概観する。						
授業の概要	主としてキリスト教西欧の、写真誕生までの美術をあつかう。ルネサンス期以降緩やかに進行してゆく「世俗化」の動きを、美術の変容をたどることで考察する。 美術作品を通じ、その作品の背景となった時代や文化の特徴、作者の抱いていた思想や思惑、他の作品との関連など、様々な要素を読み解くことに親しむ。						
到達目標	「世俗化」へと向かう美術の大きな流れを概観する。一つひとつの美術作品に、その作品が属する時代、社会、文化、思想が深く関わっていることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 キリスト教以前—古代ギリシャ、ローマの美術について— 第3回 古代ギリシャvs古代ローマ 第4回 キリスト教誕生—教会と美術— 第5回 ロマネスクvsゴシック 第6回 人間中心主義へ 第7回 自然科学と美術 第8回 宗教改革と美術 第9回 カトリックvsプロテスタント 第10回 市民階級と美術 第11回 宗教画vs世俗画 第12回 市民革命と美術 第13回 王侯貴族vs市民 第14回 産業革命と美術 第15回 まとめと展望（写真誕生までの美術の大きな流れを確認する）						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみること。 また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみること。 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術史B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近代から現代にいたる美術の変容とその多様化を、社会的、思想的背景と関連づけてとらえる。						
授業の概要	写真誕生以降の美術が、その存在意義を求めて多様化してゆく過程を概観する。「美術」や「作品」という概念そのものも、様々な解釈により常に揺れ動いてきた。今日の、そして今後のさらに多様化するであろう美術を自分たちなりに読み解き、評価しようとする姿勢を養う。						
到達目標	近代から現代までの美術の変容をたどることで、美術の変化がわたしたちの感性や価値観の変化を反映していることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 写真誕生 第3回 写真vs絵画 第4回 絵画の葛藤 1－印象主義の試み－ 第5回 新印象主義vs後期印象主義 第6回 絵画の葛藤 2－哲学を味方に－ 第7回 キュビズムvs未来派 第8回 世界大戦と美術－ダダの目指したこと－ 第9回 夢と現実－シュールレアリズムの政治性－ 第10回 デザインのカーロシヤ・アヴァンギャルドとバウハウスの活動－ 第11回 抽象の果て 第12回 大衆と人気－ポップ・アートという戦略－ 第13回 集積する「物」－大量消費社会とネオ・ダダ－ 第14回 自然と人工 第15回 多様化する美術－本当に「何でもあり」なのか？－						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	美術実技／美術実技A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	素描の制作実技						
授業の概要	<p>作品を実際に制作することで、創ることの意味を考え、表現することの楽しみを体験し、美術の理解を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、美術表現の骨格である素描の制作をする。事物のあるがままの姿をとらえ、それを平面上に表現するためには、どのような工夫が必要であるか。またそのためにはどのような描画材料が適当であるか。素描の多様性を知ると同時に、対象のとらえ方、「みる」ことの多義性を知る。</p>						
到達目標	<p>素描の制作を通じて、対象を捉える「見る」力、対象を画面に定着させるための「描く」力を身に着けると同時に、創作・鑑賞する感性や能力を養い美術の理解を深めることができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 画材を知る：鉛筆でのウォミングアップ 第3回 模写：名画に学ぶ 第4回 描法1：ハッチング 第5回 観察と表現（1）形とスケール 第6回 観察と表現（2）面でとらえる 第7回 観察と表現（3）明暗とタッチ 第8回 構図と遠近法 第9回 描法2：ぼかし/合評 第10回 植物（1）線とリズム 第11回 植物（2）淡彩 第12回 画材と描法 第13回 クロッキー 第14回 「わたし」の表現 第15回 合評</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>日常生活のなげない時間の合間にでも何かスケッチをして下さい。ものの特徴を捉えることや素描上達に役立ちます。</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題作品70%との総合評価。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	フランス文学II						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス心理小説の研究						
授業の概要	フランス心理小説の代表的作品『肉体の悪魔』（1923年発表）を取り上げる。作品題名は既定訳に従っているが、フランス語原題を忠実に訳せば、「魔に憑かれて」。第1次世界大戦下、恋愛という「魔」に憑かれた若い男女の心の軌跡を詳細にたどる。物語は、パリの有名高校に通う主人公と19歳の美しい人妻マルトとの出会いから始まる。二人は年齢差を超えて愛し合うが、戦争の終結とともに別れなければならない運命にあった。戦時下における男と女の微妙な心理を、現代の視点から捉えて行く。						
到達目標	感情の問題として処理されがちな恋愛の心理を「論理」に従って読み解き、説明することができる。						
授業計画	第1回 フランス心理小説と『肉体の悪魔』 授業は以下の場面を読み進めながら、登場人物の心理に詳細な分析を加えて行く。 第2回 「ラ・ヴァレンヌ駅での出会い」 第3回 「家具の品定め、あるいは最初の嫉妬」 第4回 「マルトの従軍兵士との結婚」 第5回 「心の麻痺」 第6回 「1918年3月の誕生日プレゼント」 第7回 「マルヌの川遊び、あるいは幸福の罪」 第8回 「夫の一時帰還とマルトの裏切り」 第10回 「良心の呵責」 第11回 「マルト、妊娠する」 第12回 「スウェーデンの少女スヴェアの魅力」 第13回 「夜の彷徨」 第14回 「妻は子供の名前を呼びながら、死んで行きました」 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修前に小説全体を読んでおくことが望ましい。教科書として使用する光文社文庫以外にも、文庫版が出ているので、訳本を購入する際は注意すること。						
授業方法	講義と質疑応答						
評価基準と評価方法	平常点（44点）＋筆記試験（56点）。なお、平常点には質疑の評価を含む。						
教科書	ラディゲ『肉体の悪魔』、光文社古典新訳文庫。ISBN978-4-334-75148-7C0197						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	前川 真裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学と異文化理解						
授業の概要	本講義では、文化人類学における古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることない思考を身につけていく。						
到達目標	学生たちが物事を多面的に捉えて、現代社会で起きている諸事象を批判的に読み解く力を養うことができるようになることを目標としている。						
授業計画	第1回 文化人類学と異文化のイメージ 第2回 自文化中心主義と西洋中心主義 第3回 親族の基本構造と進化主義 第4回 トーテミズムとヒステリア研究 第5回 未開と文明：未開人の思考とヨーロッパ人の思考 第6回 質疑応答と中間のレポート試験 第7回 いびつな異文化接触としての植民地主義 第8回 植民地下におけるカーゴカルト運動 第9回 植民地主義とオーストラリアの先住民社会 第10回 人種概念とオーストラリア社会 第11回 女らしさと男らしさ 第12回 美容整形と身体加工 第13回 トランスジェンダーと現代社会 第14回 性同一性障害と性別二元制 第15回 全体のまとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で分からなかったところを次の授業の冒頭に質問出来るように準備しておくこと。また、授業中に指摘した参考書にできるだけ目を通しておくこと。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	40点満点の中間レポート試験（決められた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）と60点満点の期末レポート試験の合計点で評価する。なお、両試験は「持ち込み可」とする。						
教科書	特に用いない。 授業で使う映像資料については初回の授業で説明する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 幸						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 幸・2013年・聖公会出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	期末レポートによる						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ローマ皇帝とキリスト教						
授業の概要	ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害したとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。ローマ帝国においてキリスト教徒はどのような状況に置かれていたのか。本講義においてはこのような問題を検討する。						
到達目標	ローマ皇帝の対キリスト教政策、ローマ帝国におけるキリスト教徒の状況を知るとともに、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを学ぶ。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 ローマの歴史（イタリア半島統一まで） 第3回 ローマの歴史（帝国の成立まで） 第4回 ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで） 第5回 ネロの迫害（ネロの生涯と史料） 第6回 ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討） 第7回 ドミティアヌスの迫害 第8回 小プリニウスとトラヤヌスの勅令 第9回 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態 第10回 軍人皇帝時代 第11回 デキウス帝とヴァレリアヌス帝の迫害 第12回 ガリエヌスの平和令 第13回 デオクレティアヌス帝の迫害 第14回 コンスタンティヌス帝による公認 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、出席30%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	弓削通『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	田邊 文彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	リスクマネジメントは、マネジメントという用語から分かるように、元々、企業経営で求められ、発達してきた分野である。しかし、近年の様々なニュースからも分かるように、様々な危険・危機の影響が、企業や行政などの枠を超えて広く我々に及び、一度当事者になれば、我々は大きな影響を受ける。ここでは、我々が社会の一員としてどのようにリスクに対峙し、どのように対応するべきかをテーマに学ぶものである。						
授業の概要	<p>「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づかず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を我々に自覚させる。</p> <p>実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。</p> <p>一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。</p> <p>このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。</p> <p>この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、受講者が生活の中でのリスクマネジメントを身につけることを目指す。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクに関する社会の課題に気づく 2. リスクを抽出・評価するための基礎知識・基礎技能を身につける 3. リスク対策に関する基礎知識・基礎技能を身につける 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01 インTRODakション 02 方法論 03 生命リスクのマネジメント1（心肺蘇生法とAEDの使用例） 04 生命リスクのマネジメント2（妊婦・幼児等の例） 05 生命リスクのマネジメント3（KYT交通安全等） 06 生命リスクのマネジメント4（防災_東京防災の例） 07 日常生活のリスクマネジメント1（1人_就職試験例） 08 日常生活のリスクマネジメント2（2人_初デート例） 09 日常生活のリスクマネジメント3（家族_海外旅行例） 10-12 日常生活のリスクマネジメント4（グループ_プロジェクト例） 13 卒業後のリスクマネジメント（社会人としてのリスクマネジメント） 14 授業まとめ 15 レポート作成・提出 <p>※授業スケジュールは変更になる場合がある。 最初は基礎的な内容を説明し、身近な題材をもとにリスクマネジメント思考を学び、徐々に高度な知識、複雑な事象のリスクマネジメントを行える能力を身につけることができるように進めていく。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	様々なニュースや身近な経験から、生活の中のリスクを、課題分野ごとに考えてくること。授業中に各自に確認する。						
授業方法	講義形式を基本としつつ、演習形式（発表）や実習形式（グループワークとグループ発表）の内容を取り入れる。						
評価基準と評価方法	毎回の課題シート提出が40%、グループワークの中間報告書が30%、各個人の最終レポートが30%						
教科書	授業中にレジュメを配布						
参考書	概念や言葉の理解には、奈良由美子「生活者リスクマネジメント」 2011年 放送大学教科書が薦められる。IS BN978-4-595-13956-7 その他、必要に応じて授業中に参考文献を紹介						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学A						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により評価する。						
教科書	指定しない。毎回の授業で、プリントを配付する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	1. 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。 2. 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、レジュメにまとめること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）や授業中に出す課題の提出（20％）、平常点（20％）などを総合的に評価する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						